



La Renaissance Française

Culture - Solidarité - Francophonie

シモーヌ・ヴェイユの薔薇のお披露目



シモーヌ・ヴェイユ女史は少女時代アウシュビッツ収容所を経験するなどまさに幾多の苦難と差別を乗り越えて帰還。パリ政治学院を卒業後、治安判事、厚生大臣、1979年の欧州議会総選挙で初めて選出された欧州議会議長、憲法評議員、アカデミー・フランセーズ会員などを務めて世界に正義と平和を訴えてきた象徴的存在です。2017年89歳で亡くなるまでルネサンス・フランセーズの名誉会長として活躍され、同年7月5日、オテル・デ・ザンヴァリッドで国葬、翌年7月1日パンテオンで合祀が執り行われたのは記憶に新しいところです。

シモーヌ・ヴェイユ女史が存命中、ルネサンス・フランセーズのルクセンブルク大公国代表部のニシアチブで、フランスのリヨン南郊の町フェザンでバラ園を営むピエール・オラール氏の栽培したオラコラックの新種のバラが「シモーヌ・ヴェイユ」と命名されました。

ルネサンス・フランセーズ百年祭のパリでの最初の記念行事として2015年9月21日、元老院の庭、リュクサンブール公園を魅力的な背景として、「シモーヌ・ヴェイユの薔薇」の命名式が執り行われ、シモーヌ・ヴェイユの代理で二人のご子息ピエール＝フランソワ・ヴェイユ氏とジャン・ヴェイユ氏のご臨席になりました。薔薇生産者オラール氏が百年祭を記念して特別に生み出した深紅の薔薇のブーケがファダ世界会長から二人に贈られました。

ルネサンス・フランセーズ日本代表部はこの度、ピエール・オラール氏及びオラール・ジャポン（オラールバラ園の総代理店）の協力を得て、シモーヌ・ヴェイユの薔薇の苗を日本に取り寄せることができました。6月1日駐日フランス大使公邸で予定されている栄誉賞授与式および6月2日東京ミッドタウンで予定されているフラワーアートアワードにてシモーヌ・ヴェイユの薔薇がお披露目となります。

この鮮やかな真紅の薔薇の花は、45枚の花弁からなる楕円形をしており、生命力が強く、年2回以上多くの花が開花し、極めて強い香りが特徴的です。同品種は、すでにバルセロナにて2015年5月に開催された国際薔薇コンクール **ROSES NOVES** の一般の部で賞を獲得しています。高さは1メートル近くになることもあるこの薔薇は、庭園や花壇で大きな存在感を示すでしょう。日本では一般販売はせず、特別な機会にのみ提供されることとなります。以上